

地区・集落避難行動調査結果概要

調査概要

- 調査対象地域 浸水域の53行政区(全町74行政区)
- 調査回答者 行政区長もしくは消防団分団役員等
- 調査方法 個別面接聞き取り
- 調査時期 平成23年6月15日～6月30日

調査結果をみる上での留意点

- 本調査では、代表者等の回答を基に、あくまで地区・集落の避難の主な動きを捉えたものである
- 比較的小規模な集落では、集落全体の避難行動が把握できた
- 一方、志津川や伊里前の市街地では、避難者が多く、避難場所や避難経路が多様であったことや、消防団が水門閉鎖等に動いていたことから回答者が全体を把握し切れなかった
⇒ 現在、住民個人を対象に避難行動調査を実施中であり、志津川や伊里前の市街地の避難行動も把握

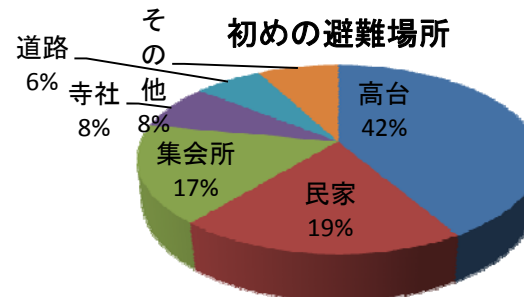
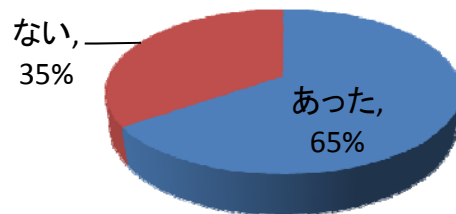
地区・集落避難行動調査結果概要

避難行動の傾向(集落のみ)

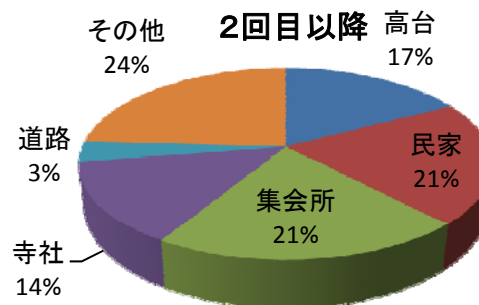
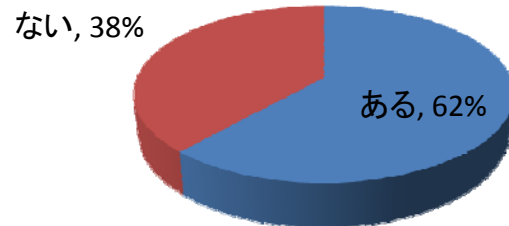
※ 志津川の市街地を除く26集落について、避難行動の傾向を分析

- 最初の避難行動では済まず、2度以上の避難行動をとった人がいる集落は、65%に及ぶ
- 最初の避難場所が被災した避難場所がある集落が62%
- 初めの避難場所では、高台が42%を占め、民家、集会所が次ぐ
- 2回目の避難場所では、民家と集会所が各々21%を占め、高台、寺社が次ぐ
- 被災した指定避難場所に代えて、身近で高所の高台や民家が避難場所となった
- 津波が来るまでの主な情報源は、防災無線が最も多く、ラジオと人づてがそれに次ぐ

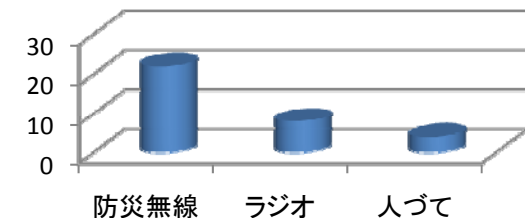
2度以上の避難のための移動があった
地区・集落



初めの避難場所が被災した避難場所がある地
区・集落



避難時に使った情報源



地区・集落避難行動調査結果概要

避難行動等の主なパターン

- 最初の行動で安全な避難施設に避難できた人もいるが、逃げ遅れるなどして咄嗟に最寄の高台などによじ登った人も多かった
- 避難先が被災し、2度逃げ、3度逃げした人もいた
- 津波安定後、救援・救護を求めて、拠点的避難施設に移動した人もいた



地区・集落避難行動調査結果概要

避難場所と避難経路の課題

- ・方向別に短時間で避難できるある程度の高さの最寄りの避難場所とそこまでの避難経路の必要性
- ・最寄りの避難場所と地区・集落内の避難施設(建物)、さらに町全体での拠点的避難施設の間の避難経路、救援・救護経路の必要性

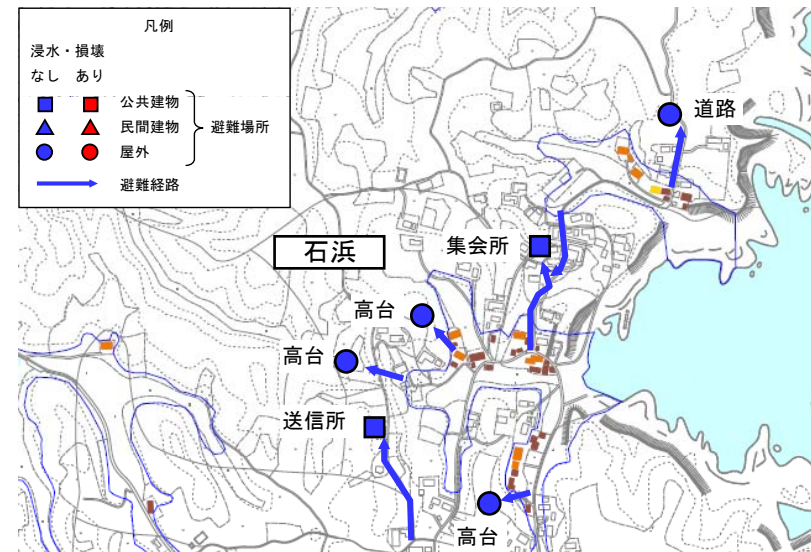
主な避難行動の状況①

- ・藤浜や石浜では、方向別に最寄りの高台や道路に避難して助かった
- ・一方、長清水では最初の避難場所の高さが低く2度逃げしている

藤浜・長清水



石浜

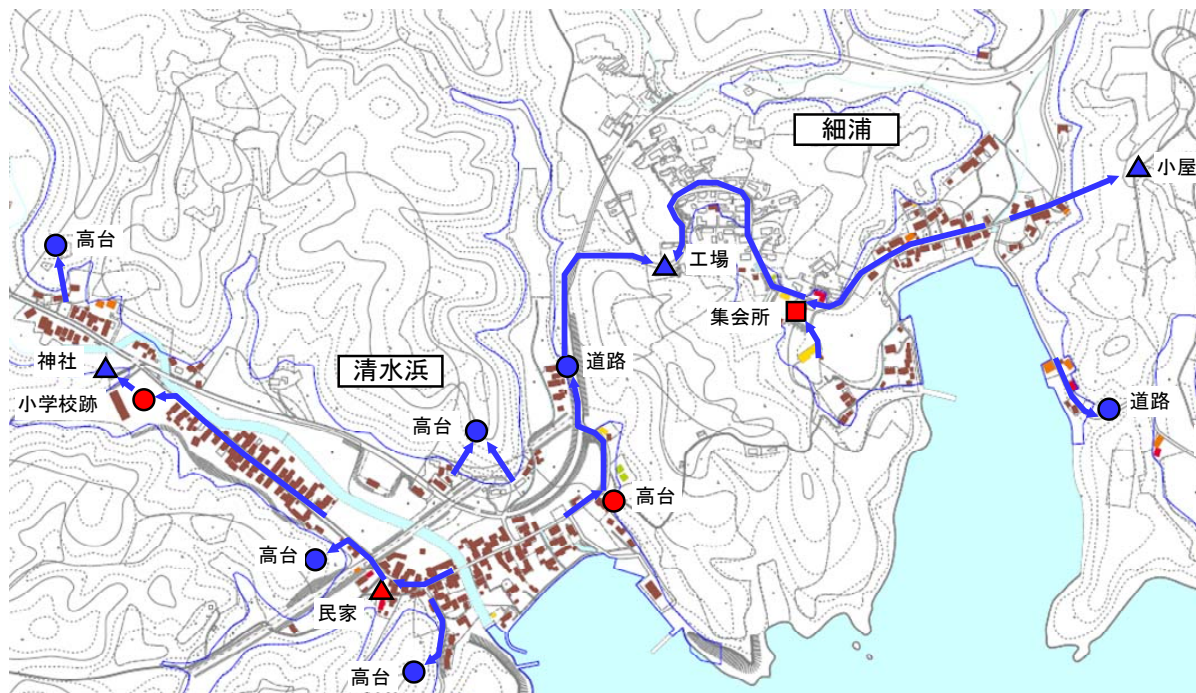


地区・集落避難行動調査結果概要

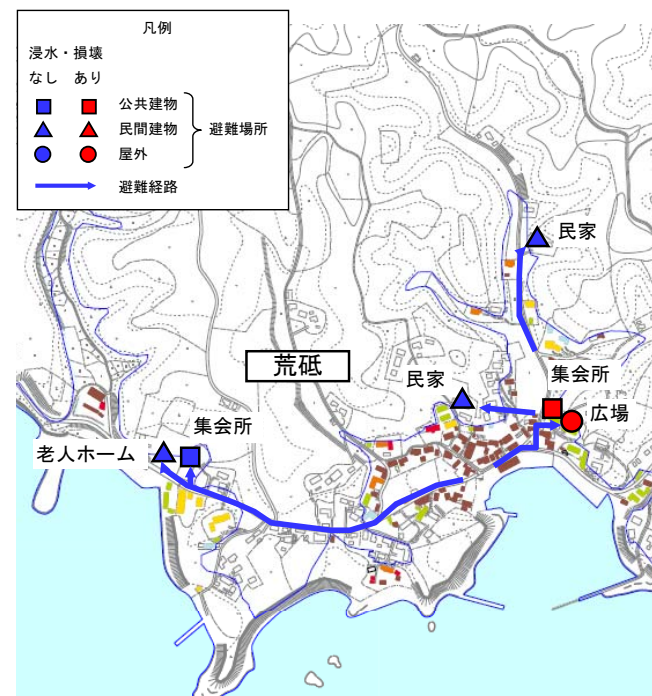
主な避難行動の状況②

- ・避難所に指定されていた集会所や学校跡地に初めに避難した人が多かったが、その避難場所が被災し2度逃げ
- ・清水では、津波がここまで来るとは思わなかった住民が多く、この学校跡の避難場所とその奥の住宅地で多くの犠牲者がでた

清水・細浦



荒砥



地区・集落避難行動調査結果概要

主な避難行動の状況③

- ・志津川市街地と伊里前では学校や最寄の高台等への避難は把握されているものの、市街地内部での避難場所や避難経路が把握しきれていない
- ・中心部からは多くの人が拠点的避難場所である学校などに避難したことが伺える
- ・小森や新井田などの市街地外縁部では、来るとは予想をしていなかった津波が来たため咄嗟に周辺の高台等に避難した行動が伺える
- ・慈恵園をはじめ周辺の高台にある避難場所が被災し、2度逃げている
- ・津波安定後、救援・救護のためアリーナや高校へ山越えで向かった人もいた

※住民個人を対象とした避難行動調査で中心部等の避難行動を把握予定

伊里前



志津川市街地

